

形態素 *-ext* を通した語形成力の分析

竹 中 裕 貴

0. はじめに

本稿では、まず、スマートフォンの普及とともに生じているある社会問題を象徴する語として登場した *wext* という動詞を分析する。ジャーナリズムやネット上で使用されている実例を踏まえ、この動詞の基本的な意味と連想的意味 (*associate meaning*) を探り、その派生表現についても言及していきたい。その後、この動詞を形成する *-ext* という形態素 に注目し、McKean (2010) を参考に、その言語的特徴を整理していきたい。また、動詞 *wext* のような新語の派生を可能にする形態素の「語形成力」について、言語学的な側面とともに、背景となる社会的文化を重視し、筆者の言語分析における基本的立場である言語文化的アプローチをとり、言語変化のプロセスとある言語表現の発展性に関わり、どのような生産性が生み出されていくのかを明らかにしていきたい。

1. 動詞 *wext* の広がり

まず、動詞 *wext* がどのように使用されているのかを見ていきたい。この動詞は、携帯電話が普及し、メール (*text message*) が爆発的に使用されはじめたことで誕生し、まだ一般の辞書には採録されていない表現である。筆者が確認した一番古い例は、2007 年の例 [(4a)] であるが、定着するに至っておらず、新規性のある表現として議論の対象になっており¹⁾、例えば、*The Wall Street Journal* の “What Do You Call a Reckless Texter?” と題した 2015 年の記事の中で、アメリカ人の言語学者 Benjamin Zimmer が以下のように議論している（以下、引用文中の下線部は筆者によるものである）：

- (1) Another possible name for the practice is “wexting,” a blend of “walking” and “texting.” And someone who engages in wexting is, of course, a “wexter.”

(<http://www.wsj.com/articles/what-do-you-call-a-reckless-texter-1451407390>)

この動詞の意味は、(1) が示すように動詞 *walk* と *text* との混交 (*blending*) から生み出されており、「歩きながらメールを送る」という行為を指すものである。また *wexter* のように、人を表す接尾辞が付加された派生表現も生まれている。

同様に、「歩きながらメールを送る」行為について扱った次のイギリス人のジャーナリスト Viv Groskop による “I’m a bit of a wexter. You probably are too. And yes, that’s a bad thing.” と題された記事の中にも、こうした新語の使用が確認できる。

- (2) We all have bad habits, and now there's an appropriately nasty word for mine: wexting (using your phone as you walk). I've got it down to a fine art: walk, scroll, glance up, stop, tap, walk. A lot of the time, rather like a teenage boy, I have been wexting without realising I'm doing it. I don't think this awful expression is going to catch on, by the way, so I'm just making the most of it while it's new.
- (<https://www.theguardian.com/commentisfree/2015/jan/28/wexting-walking-texting-women-priests-libby-lane>)

さらに、次の例は、“A dangerous epidemic is sweeping Canada, and it's called ‘wexting’”というタイトルのカナダのジャーナリズムからの例であるが、本文の 2 カ所で表現が使用されている。

- (3) a. A dangerous epidemic is sweeping Canada, and it's called ‘wexting’
 b. We're talking about TaW: Texting and Walking, people. Or, as it's now called, “wexting.” Yes, it's a cringe-worthy word, but it's become a part of your everyday life — we know, we're guilty of it too.
- (<http://www.theloop.ca/canadians-wexters-are-getting-stopped-in-their-tracks/>)

以上の記事は、アメリカ合衆国、イギリス、さらにカナダにおいて *wext* と *wexter* を紹介・説明するものであり、社会的に問題のある行動であるとしている。携帯電話や、特に現在ではスマートフォンが生活の一部となっている現代社会では、若者を中心に “wexting” は珍しい行動ではなく、日本語においては、複合語として「歩きタバコ」ならぬ、「歩き携帯」や「歩きスマホ」などという表現も生まれているところである。²⁾ このような現代社会の事情を反映し、英語圏、特に少なくとも上記の 3 カ国においては、それを象徴する印象的な表現の「需要」が高まることで、*wext* が生まれたのであろう。

次に、最新のスラングが集められた *Urban Dictionary* (<http://ja.urbandictionary.com/>) における状況を確認しておきたい。このサイトは、言語学者や辞書編集者からの投稿というより、一般の人々が定義や使用例を持ち寄るため、注意が必要であるが、以下のような記述が見つかる³⁾:

- (4) a. The act of walking while simultaneously text messaging someone.
DJ was wexting on Bridge street. (s.v. **wext**)
 b. The action of walking and texting, as in typing a message on a cell phone, at the same time.
While bicycling down the sidewalk, I almost ran over a young man who stepped out in front of me while he was wexting. Wexting is a dangerous habit. (s.v. **wexting**)
 c. texting while walking
He cannot walk straight because of his wexting addiction. (s.v. **wexting**)

(4) の各定義については、(1) から (3) で示されている定義と大差なく、その用例も分かりやすいが、(4b) は一つ目が現在分詞、二つ目は動名詞としての用法であり、(3c) は現在分詞の形容詞的用法として使用されていることに注意されたい。

さらに、人を表す **wexter** についての以下の定義は、この表現に付随する社会的な連想的意味 (associate meaning) を含めて理解する上で特に役立つものである。

- (5) A person walking around in public that has their cell phone/mobile device out in front of their face rapidly hitting keys (texting) while walking and not paying ANY attention to where he/she is walking; thus pissing everyone else off because they are being slowed down and being run in to with the desire to slap he/she across the head or push them towards a nearby wall where he/she can text all they want while not pissing everyone else off

I was running late for class because some douche-bag wexter was getting in my way.

(s.v. **wexter**)

このような、危険で他者に大変な迷惑をかける行為であることがその意味の一部として定着していることは、後述する形態素としての **-ext** に関連するものでもあるため、非常に重要な点である。

ただし、この他の公のニュースメディアなどにおいて、**wext** がどのような動詞であるか注釈を与えることなく、自然な表現として使用されているものはほとんどなく、未だ十分な用例収集には至ってはいない。これは、この表現が格式張らないものであるのと同時に、次にあげるような既存の代替表現が存在することに関係していると考えられる。その用例を以下に示しておく。

- (6) a. New Jersey wants to fine and jail people for walk-texting
(http://newsthive.com/new-jersey-wants-to-fine-and-jail-people-for-walk-texting_457051/)
- b. Celebrities like Paris Hilton are just as susceptible to walk-texting as anyone else.
(<http://www.itv.com/news/2015-07-30/people-walk-slower-and-drunk-swerve-when-texting-while-distracted-study-finds/>)
- c. Remember when the most annoying side effect of our descent into techno-reliance was douchebags who text-walked into you and bluetooth users who look like Rhythm Nation tour castoffs that were indistinguishable from twitchy sidewalk Jesus talkers?
(<http://nerdbastards.com/tag/green-lantern/page/4/>)

では、**walk-texting** という既存の表現が (6) のように確認される中で、なぜ **wext** という表現が次第に広がりつつあるのであろうか。もちろん、言語経済的観点から、綴字がより短く、発

音もしやすい語で、前述の「需要」という観点からもジャーナリストにも好まれることは間違いないが、本稿では形態素 *-ext* の議論と合わせて以下で分析を継続していきたい。

2. 動詞 *text* と形態素 *-ext*

では、まず *-ext* という形態素の持つ意味についてより詳細に考察する。すでに述べたように、これは *text* (携帯でメールを送る) という動詞の、語頭の子音 *t* を除いた部分 (*-ext*) が、動詞を作り出す形態素として使用されているものである。そもそも、*text* の動詞用法についても、携帯電話の登場により影響を受け、用法が拡大した結果生まれたものであり大変興味深い。念のため英英辞典の定義を確認しておく、*OALD* の定義が分かりやすく、(6) にあるとおりである。

(7) **Verb** [T, I] to send sb a written message using a mobile/cell phone

また、Burchfield (2004) の記述は、動詞 *text* に起こった意味の変化 (broadening) も知ることができ、参考になる：

(8) The meaning most familiar to people today, namely ‘to send a text message’ (see TEXT MESSAGE) has revived this formerly obsolete verb, first cited in 1564, and used later in the 16c., by Shakespeare among others, to mean ‘to write in large or capital letters’: *Yea and text underneath, here dwells Benedick the married man—Much Ado about Nothing*, 1600. In its modern meaning, the *OED* dates the first citation to 1998.

(s.v. **text (verb)**)

動詞としての *text* の語義が、近年の技術の進歩により見事に別の形で「復活」したことが分かる。形態素 *-ext* はこのような復活があつてこそ、生み出された表現である。

3. 形態素 *-ext* の言語文化相

前述の通り *wext* は、*walk* から語頭の *w* をとり、*-ext* と合わせて、すなわち混交によって形成した語であるが、では、先ほど議論した *text* から派生した *-ext* という形態素について以下ではより詳しく見ていきたい。

この形態素について、McKean (2010) では、“quasi-suffix” と位置づけ、*-exting* と常に *-ing* の付加された形で扱っている。まず注目されるのは、その生産性を示す例として *chexting* (cheating on one’s spouse or partner through the medium of text messages) をはじめとして、多くの派生語を挙げていることである。以下に派生表現をまとめておきたい。まず、“quasi-serious, relationshippy” なものとして、

- (9) **sexting** (Taking nude or seminude pictures with a camera phone and then sending them as texts (usually with tragic results))
brexting (breaking up with someone via text message, a truly slimy thing to do)
drexting (sending text messages — often amorous ones — while drunk)
confexting (confessing something — possibly chexting? — via text message)
fexting (fake-texting, that is, pretending to be sending a text message in order to avoid talking to someone, or just so that you don't look as if you're such a loser that no one is texting you for real)

があるとしている。⁴⁾ また, “jokey or facetious” なものとして, **wext** を含む形で以下のような例を挙げている :

- (10) **hexting** (sending curses via text message)
Czexting (sending text messages in Czech)
Quebexting (sending text messages in Canada)
objexting (what lawyers do when they text in the courtroom)
vexting (sending intentionally upsetting text messages)
wexting (texting and walking)

このような用例と, **wext** で行った分析を併せて考えると, この形態素を含む新語形成に係る生産性や意味的発展については, 以下のようにまとめることができる。

- ① X + ext の形で動詞を派生する。
- ② -ext は, メール (主に携帯電話やスマートフォン) を書く・送るという意味である。
- ③ X はほとんどの場合, 任意の「動詞」の頭から, 任意の部分を切り取ったものであるが, 一部, 場所を表す固有名詞も含まれる。(cf. Czexting, Quebexting)
- ④ X は閉音節である必要がある。
- ⑤ 派生した動詞は, X という行為と, メールを書くまたは送るという動作を同時に行うことを意味し, X が固有名詞の場合は, その場所を表す。
- ⑥ X が動詞の場合, 生み出された動詞は, 社会的に問題のある行為となる。
- ⑦ 言葉遊びの側面が強く, 辞書への掲載は特殊辞典を除いて見られない。

② において, 「主に携帯電話やスマートフォン」としたのは, 必ずしもメールを送る場合に使用するのが携帯電話などのメールシステムではないからである。以下のタイトルの記事を見たい :

(11) ‘Chexting’ Breaking Up Happy Homes

(<http://miami.cbslocal.com/2014/05/28/chexting-breaking-up-happy-homes/>)

この記事では, *cheat* と *text* との混交から生じた “*chexting*” という表現が使用されているが, この中で, 妻が「不倫」と感じるほど深い悩みを自分以外の女性に打ち明けていた彼女の夫が使用していたのは Facebook であり (“He left his Facebook up one day and there was a whole other life,” said one woman.), メールを送る (メッセージを送信する) 際に使うシステムは必ずしも携帯電話やスマホのメールシステムとは限らないためである。

また, McKean が *-exting* として進行形の形で扱っていたことから分かるように, メールを書くことと同時に何かを行うという, 「同時進行」を表す表現であるため, 進行相との相性が良い。統語的には, 動詞 *text* に準じたふるまいを見せると予測できるが, 本稿で収集した使用例のほとんどは, まさに「歩きながらメールする」という行為そのものに焦点を当て, 進行形で用いられた自動詞用法となっており, 動詞としての用法の広がりが現在のところは見いだせない。しかしながら *-ing* で用いることが義務的であるかは, さらなる調査が必要である。

もう 1 点, さらに気を付けるべき点として, *The Wall Street Journal* の *wext* を扱う記事 [用例 (1)] の中に, 以下のような一文がある:

(12) “Wexting” is one of many recent coinages that grafts a consonant or two to the beginning of “-exting” to describe the intersection of text-messaging with other social practices.

(<http://www.wsj.com/articles/what-do-you-call-a-reckless-texter-1451407390>)

上記下線部では, 特に語頭に付加されるのは比較的短い「1つか2つ」の子音であるという印象を与える。確かにそのような例も多いのだが, *conf-exting* や *Queb-exting* の例が示すように, 音韻的な問題が発生しなければ, 音節単位で母音も含まれるし, ④ のような制約はあるが, 特にその長さが制限されるとは考えられない。

4. 生産性の背景・動詞 *text* から連想されるもの

McKean (2010) が指摘するように, 単に不道德な行為を糾弾するための表現であれば, 過去, メールなどなかった時代に, 手紙や電話による不倫などの不道德な行為を表す表現として, *cheat* との組み合わせで *chea-mail* や *che-lephoing* が生み出されていても不思議ではないが, そのような記録はない。⁵⁾ このことから, *-ext* という形態素は *mail* や *telephone* とは異なる, 強い語形成力を生み出す特殊な背景が存在することになる。McKean (2010) は次の 2 つの要因を指摘しているが, それらは注目に値する。

まず, このような多くの非常にネガティブな意味を持った動詞を生み出す要因の一つは, 特に携帯電話のメールを送るという行為 (*text-messaging*) が, 現代社会では不倫を含む, 迷惑な悪行と強く連想されていることにある。

携帯電話のメール見ながら、またはメッセージを打ちながら、別の行為を行うことは、すでに議論したとおり非常に迷惑な、またはそれだけでなく事故を引き起こし犯罪的な行為となり得る。以下の漫画の風刺もそれを知っていれば面白い（動物用の為の檻と、犯罪者が入れられる拘留所の意味が“pound”一語に重ねられている）。

MOTHER GOOSE & GRIMM

Saturday, Jan. 26th, 2013



(<http://www.grimmy.com/>)

様々な場所で警鐘が鳴らされているわけである。⁶⁾

もう一つの要因としては、メールなどに使用され、比較的新しいと認識されている *rebuses* (b→be や 2→to) や *abbreviations* (agn→again, mth→month, gd→good) による多様な表現 (cf. Crystal 2010: 425) が、英語という言語を破壊すると考える人々の存在が指摘されている [Crystal (2008) には、このような例が 50 年以上前から使用されていることが指摘され、全く新しい表現とは言えないことが分かる]。このことに関しては、Crystal (2008, 2009) が詳しく論じており、詳細なデータを持って反論しているが、その中で、反駁するために引用されている以下のような発言が、言語学的知識に触れることのない人々の間に広がっていることは想像に難くなく、このような *text* という行為に付随するネガティブな認識の広がり、*text* という動詞と形態素 *-ext* に、さらなるマイナスの印象を与えることになっている：

- (13) Last year, in a newspaper article headed “I h8 txt msgs: How texting is wrecking our language”, John Humphrys argued that texters are “vandals who are doing to our language what Genghis Khan did to his neighbours 800 years ago. They are destroying it: pillaging our punctuation; savaging our sentences; raping our vocabulary. And they must be stopped.”
- As a new variety of language, texting has been condemned as “textese”, “slanguage”, a “digital virus”. According to John Sutherland of University College London, writing in this paper in 2002, it is “bleak, bald, sad shorthand. Drab shrinktalk ... Linguistically it’s all pig’s ear ... it masks dyslexia, poor spelling and mental laziness. Texting is penmanship for illiterates.” —*ibid*

以上のような、動詞 **text** に由来する **-ext** の背負う「社会的な迷惑行為・不道德さ」や、誤解に基づく「英語という言語を劣化させる」といった強烈な負のイメージは、単なる音韻的・形態的な範疇を超えて、この形態素を、他の類似表現にはない特別なものになっている。その認識に個人差はあるにせよ、このような印象は、**mail** や **telephone** にはないものである。

そして、**walk-texting** などと比較すれば、すでに触れた言語の経済的な側面と併せて、**wext** のような新規的な表現は、使用者にとって、マイナスイメージからくるインパクトがあり、冒頭で挙げた、警鐘を鳴らすための新聞記事などでは特に効果的な表現となっている。こういった側面が、言語変化に資する生産性、すなわち強い「語形成力」の源となっており、そのため現在でも **-ext** が使用され、様々な派生表現を生み出すことになっていると考えられる。

混交などで生み出される表現は、確かにほとんどが時代とともに消えていくものである。**-ext** という形態素が今後、消滅してしまうか、または今後もその存在感を示しながら生き残っていくかの予測は困難であるが、このような最新の語を追うことで、英語という言語の変化を読み取っていくきっかけとなるのではないだろうか。安井 (1996) の **blending** (混交) に関する記述は大変示唆に富む：

- (14) 複数個の表現が混じり合っ、それぞれの表現本来の形を部分的に残しながら、まったく新しい表現を作り出すことをいう。その結果はそれぞれの表現の原型から逸脱した形をとることになるのであるから、本来非文法的なものである。しかし、とりわけアメリカ英語では混交による新造語、新表現が次々に生まれ、また容認されていくうちに定着し、その表現が逆に「正しい英語」に侵入し、英語を変化させていくといった現象が見られる。

本稿で取り上げた動詞 **wext** 並びに **-ext** を含む一連の派生語は、若者中心の、一つのはやり言葉と軽視することなく、今後も注目していくべき表現である。

5. おわりに

本稿では、**wext** という混交によって生み出された動詞を議論の足がかりとし、形態素 **-ext** の持つ言語文化的な意味と、その生産性について概観してきた。

まず、アメリカ英語、イギリス英語、そしてカナダで議論されていた動詞 **wext** を取り上げ、その意味と語形成に関わる情報を整理した。**Walk** と **text** という二つの動詞の混交によって生じた **wext** の「歩きながらメールを送る」という行為や、それを行う人を指す **wexter** という派生表現を分析し、それぞれが社会的に非常に好ましくない行為であるという、マイナスの印象をもたれていることを明らかにした。また、この表現は **walk-texting** のような同じ行為を指す既存の表現が存在しているにもかかわらず、平行して使用されていることも示した。

次に、**wext** を形成する、動詞 **text** に由来する **-ext** という形態素について分析を行った。いくつかの用例と、先行研究である **McKean (2010)** の分析を通し、この形態素の言語的特性と、

上記のようなネガティブな印象が、wext のみに独立して存在するのではなく、-ext の基となった動詞 text によってさらに強化されていることを議論した。Text (メールを送信する) という行為が、倫理に逸脱した行いと関連づけられてしまっていること、また、携帯電話やスマートフォンなどのメールに使用される独特の省略表現が、一定の人々にとっては英語という言語を「悪化」させるのではないかという誤った認識へとつながってしまっていることを確認した。そして同時に、このような背景こそが、それを背負って誕生した -ext に形態的・音韻的な側面からのみでは生じ得ない、多様な表現を生み出す強い語形成力を与えていることを示した。

携帯電話やスマートフォンなどのデバイスが進化する以上、それに付随する言語表現も新たに生まれ、形を変えていく。科学技術の発展と、新語形成には密接な関係が存在するのである。そして、本稿で見たような時代の変化による意味の拡張を伴う言語変化は、綴りや発音が全く新しい語を生み出すものではなく、そこには既存の語を触媒として、新たに付加された社会的な意味を取り込む形で表現を生み出すメカニズムが働いているようである。

以上のような観点を踏まえ、今後も形態素を含む新語の分析も続けていく必要があり、そうすることで上記のようなメカニズムについて、より詳細な分析を行い、またその一般化へと導けると信じる。

【注】

- 1) Text messaging について議論する *Wikipedia* の項目にも、wext についての言及が見られる(https://en.wikipedia.org/w/index.php?title=Text_messaging&oldformat=true#Title_texting)。
- 2) 日本でも新聞記事になり警告されている行為である。例えば、*The Japan News* では、“Campaign aims to stop on-the-go texting” (<http://the-japan-news.com/news/article/0003232767>) というタイトルの記事や、「歩きスマホは危険、罰金を」(<http://www.yomiuri.co.jp/komachi/plus/kuragetlogy/20160823-OYT8T50064.html>) と題した読売新聞の記事も簡単に見つかる。
- 3) 本稿では深く議論しないが、wexting という項目には、この他、以下のような卑俗な表現としての定義も掲載されている：

Making a girl wet via texting.

Jack was wexting me so much last night I had to put my phone in a bowl of rice.

To send picture text message of ones “wenis” or “wagina”

Bob got in trouble for Wexting by sending a text picture of his wenis to everyone at school!!

- 4) Drexting については *Urban Dictionary* に以下のような他の定義も乗せられており、*-ext* という形態素に、どのような語が合成されているのか、またその意味解釈については、文頭のアルファベットからは簡単には分からない。

The act of driving and texting

Jolean was drexting, which lead her to crash into a tree disfiguring her face and leaving her in a coma.

- 5) ただし、Nastygram, kissogram, stripagram など、telegram を用いた表現の存在は指摘されている (McKean 2010)。
- 6) この他、例えばメールをしながら歩く人々をゾンビに喩えて揶揄することで警鐘を鳴らす動画 (*Texting Zombies*) を National Road Safety Foundation が作成している (<https://www.youtube.com/watch?v=7UNYt8UjVSg>)。

参 考 文 献

[辞書・論文・研究書]

Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English. 8th ed. Oxford: Oxford University Press. 2010. [OALD8]

Burchfield, R.W. (2004), *Fowler's Modern English Usage*. First edited by Henry Watson Fowler. Revised with title change. Oxford: Oxford University Pres.

Crystal, David (2008), *2b or not 2b?* (<https://www.theguardian.com/books/2008/jul/05/saturdayreviewsfeatres.guardianreview>)

---, (2009), *Txtng: The Gr8 Db8*. Oxford: Oxford University Press.

---, (2010), *The Cambridge Encyclopedia of Language*. 3rd edition. Cambridge: Cambridge University Press.

McKean, Erin (2010), *The Joy of -ext*. (http://archive.boston.com/bostonglobe/ideas/articles/2010/04/18/the_joy_of_ext/)

安井稔 (1996), 『コンサイス英文法辞典』第1版, 三省堂.

[インターネット資料]

CBS Miami <http://miami.cbslocal.com/2014/05/28/chexting-breaking-up-happy-homes/>

ITV News <http://www.itv.com/news/2015-07-30/people-walk-slower-and-drunken-swerve-when-texting-while-distracted-study-finds>

<i>Mother Goose & Grimm</i>	http://www.grimmy.com/
<i>Nerd Busters</i>	http://nerdbastards.com/tag/green-lantern/page/4/
<i>NewThrive</i>	http://newsthive.com/new-jersey-wants-to-fine-and-jail-people-for-walk-texting_457051/
<i>The Guardian</i>	https://www.theguardian.com/commentisfree/2015/jan/28/wexting-walking-texting-women-priests-libby-lane
<i>The Wall Street Journal</i>	http://www.wsj.com/articles/what-do-you-call-a-reckless-texter-1451407390
<i>Urban Dictionary</i>	http://ja.urbandictionary.com/

(たけなか ゆうき・島根大学外国語教育センター准教授)

